

# Canon EF LENS

## EF24-70mm f/4L IS USM



IMAGE STABILIZER

 ULTRASONIC

JPN

使用説明書

# キヤノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

キヤノンEF24-70mm F4L IS USMは、手ブレ補正機能を備え、マクロ領域に切り換えることで0.7倍までの近接（マクロ）撮影ができる、EOSカメラ用の高性能標準ズームレンズです。

- ISはImage Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USMはUltrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

## 特長

1. 一般撮影時シャッター速度換算で、約4段分\*の手ブレ補正機能を備えています。  
また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮り、近接（マクロ）撮影など）に応じて最適な手ブレ補正を行います。
2. 振動ジャイロと加速度センサーを採用することにより、近接（マクロ）撮影においても高い手ブレ補正効果を実現しています。（ハイブリッドIS搭載）
3. UDレンズと2種類の非球面レンズを採用することにより、優れた描写性能を実現しています。
4. ズームリングをマクロ領域に切り換えることで、0.7倍までのマクロ撮影をすることができます。
5. 最前面と最後面のレンズ面に、フッ素コーティングを採用することにより、付着した汚れを従来と比べて簡単に取り除くことができます。
6. 超音波モーター（USM）搭載により、高速で静かなオートフォーカスを実現しています。
7. オートフォーカスモード（ONE SHOT AF時）のまま、合焦後にマニュアルでピント調整ができます。
8. 円形絞りの採用により、なめらかで美しいボケ味が得られます。
9. 密閉構造の採用により、優れた防塵・防滴性能を備えています。

\* [1/焦点距離] 秒を基準にしています。  
一般に手ブレを防ぐためには「1/焦点距離」秒以上のシャッター速度が必要といわれています。

## 安全上のご注意

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。  
特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

## 取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。

## 本文中のマークについて

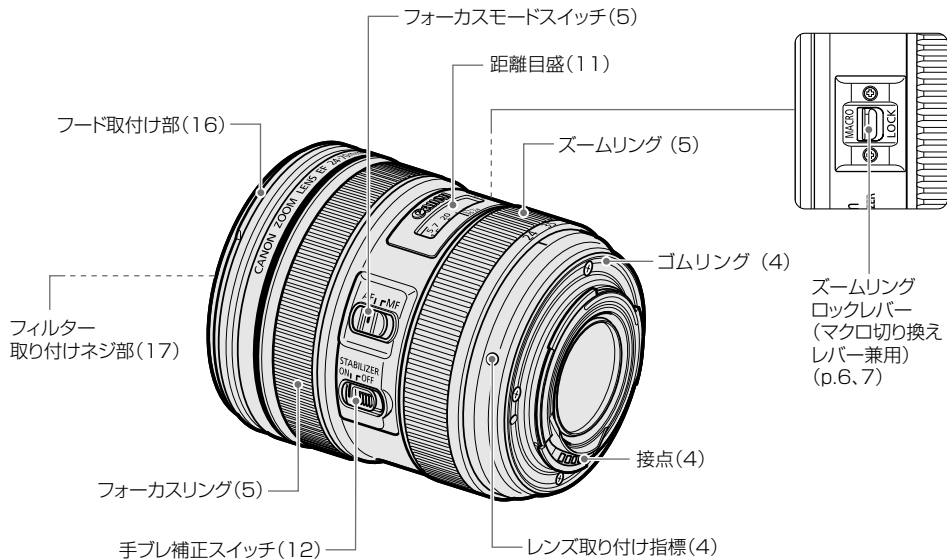


撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

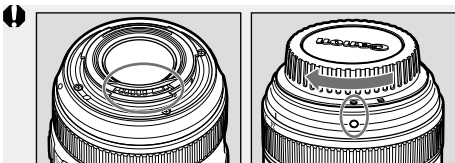
# 各部の名称



● (\*\* ) の\*\*部は参照ページを示しています。

# 1. レンズの着脱

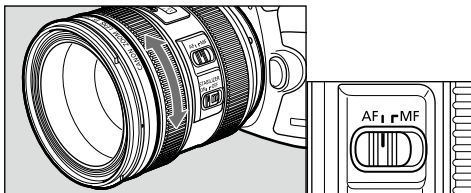
レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。




- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。取り外しは、逆の手順で行います。

ⓘ このレンズでは、防塵・防滴を向上させるため、マウント部にゴムリングを採用しています。レンズの着脱を繰り返すと、カメラ本体のマウントの外周部分にゴムリングの細かい擦れ跡が付くことがありますが、使用上の問題はありません。なお、ゴムリングはキヤノンサービスセンターで交換できます。(有料)

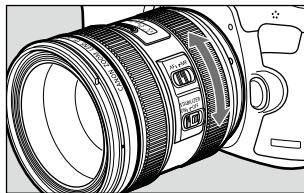
## 2. フォーカスモードの設定




オートフォーカス (AF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをAFにします。マニュアルフォーカス (MF) で撮影するときは、フォーカスモードスイッチをMFにし、フォーカスリングを回します。フォーカスリングは、フォーカスモードに関係なくいつでも動かせます。

 カメラのAFモードがONE SHOT AFのときは、AFでピントを合わせたあと、シャッター半押し状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。(フルタイムマニュアルフォーカス)

## 3. ズーミング

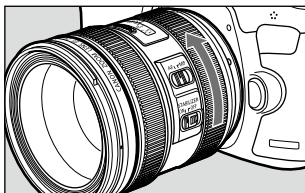
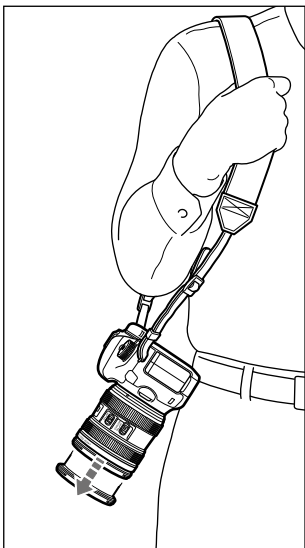


ズームリングを回転させてズームリングします。

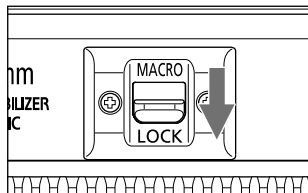
 ピント合わせはズームリングしたあとで行ってください。ピントを合わせてからズームリングすると、ピント誤差が生じることがあります。

## 4. ズームリングの固定

ズームリングを固定して、レンズを最短状態に保持できます。ストラップ付きカメラに装着した状態で運搬するとき、ズーム繰り出し部が伸びてしまうことを防ぎます。



- 1 ズームリングをワイド端 (24mm) まで回します。



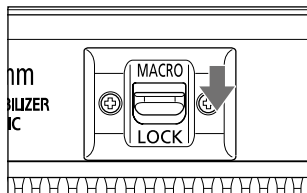
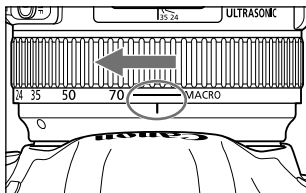
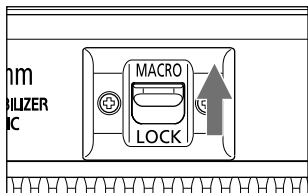
- 2 ズームリングロックレバーを矢印の方向にスライドします。

- ズームリングの固定を解除するときは、ズームリングロックレバーを矢印の反対方向にスライドします。

**!** ワイド端以外でのズームリングの固定はできません。

## 5. 近接（マクロ）撮影への切り換え

ズームリングをマクロ領域に切り換えると、近接（マクロ）撮影をすることができます。



- 1 マクロ切り換えレバーをMACROの方向にスライドさせて、戻らないように保持します。
  - 2 ズームリングをテレ端（70mm）からさらに黄色い線のマクロ領域に回します。
  - 3 マクロ切り換えレバーを放します。
- マクロ領域に切り換え後、ズームリングは、黄色い線のマクロ領域の範囲内でのみ操作できます。
  - マクロ領域から通常ズーム領域に戻す場合は、マクロ切り換えレバーを同じくMACROの方向にスライドさせ保持しながらズームリングをワイド方向へ戻します。



- 撮影倍率とは、被写体の大きさと撮像面上の像の大きさの比率のことです。
- 最大撮影倍率0.7倍までの近接（マクロ）撮影（最短撮影距離20cm）ができます。撮影距離は、被写体から撮像面までの距離です。なおレンズ先端から被写体までの距離（ワーキングディスタンス）は約3cmです。

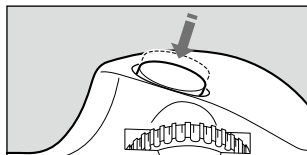
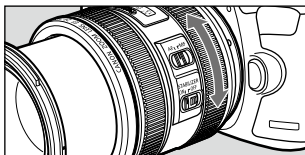
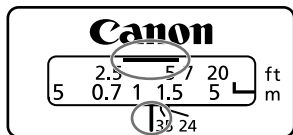


## 6. 近接（マクロ）撮影の方法

距離目盛上の黄色い線は、近接（マクロ）撮影時に画質劣化の少ないフォーカス範囲を目安で示しています。\*ここで説明する撮影の方法は、高い描写性能を引き出すために、黄色い線の範囲内でピントを合わせる方法です。

\* 但し、距離目盛上の黄色い線の範囲内では、最大撮影倍率は0.5倍までです。

近接（マクロ）撮影では、三脚のご使用をおすすめします。



**1** ズームリングをマクロ領域に切り換えます。次にフォーカスリングの位置を距離目盛上の黄色い線の中央を目安にして合わせます。

- 距離目盛上の黄色い線の範囲内の撮影では、最大撮影倍率0.5倍までです。これを超える撮影倍率は、黄色い線を越えてピントを合わせてください。

**2** ズームリングの調整とカメラ全体を前後させて、撮影倍率（撮影の構図）とおおよそのピントを合わせます。

- ここでのおおよそのピント合わせは、距離目盛上の黄色い線の範囲内に、ピントを合わせるためのものです。

**3** シャッターボタンを半押ししてAFで、またはMFでピントを合わせて撮影します。

- MFで厳密にピントを合わせるには、カメラのライブビュー撮影の拡大表示機能\*をご利用ください。

\* カメラの使用説明書を参照してください。  
またカメラの使用説明書内、ライブビュー撮影全般に関する注意事項も同時にお読みください。

## 近接（マクロ）撮影の方法

- 近接（マクロ）撮影では、被写界深度が浅くなるため、ピント合わせは、慎重に行ってください。
- フォーカスリングの距離目盛は、通常撮影時の距離表示です。近接（マクロ）撮影時の距離表示ではありません。
- マクロ領域に切り換えると、画像に記録される焦点距離情報は、システムの都合上、70mmを超えて80mmまでの焦点距離情報が書き込まれます。\*ただし実際の焦点距離が、70mmを超えることはありません。

\* カメラにより異なります。



- 本レンズでの撮影倍率は、フォーカスリングの位置/ズームリングの位置/撮影距離の組み合わせで決まります。したがって、ある一つの撮影倍率を得る組み合わせは無数にあります。本記載の近接（マクロ）撮影の方法は、ピントを合わせたフォーカス位置が、距離目盛の黄色い線の範囲内に出来るだけ入るようにしたものであり、撮影方法を制限するものではありません。
- 被写界深度の確認は、カメラの被写界深度確認機能を利用してください。
- 手持ちによる近接（マクロ）撮影については、p.14をご覧ください。

## 7. 近接（マクロ）撮影時の露出

### 露出の決め方

TTL測光により撮影するときは、レンズを透過した光の量を測るため、露出補正の必要はありません。全ての撮影距離で、TTL測光によりAE（自動露出）撮影ができます。任意の撮影モードを選択し、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。

### 撮影倍率と実効FNo.

カメラに表示される絞り数値は、ピントが無限遠（ $\infty$ ）のときの数値です。実際の絞り（実効FNo.）は、撮影距離が近づく（撮影倍率が高くなる）にしたがって暗く（実効FNo.数値が大き）くなります。これは一般撮影の領域では露出にほとんど影響はありませんが、近接（マクロ）撮影の場合、実効FNo.の変化は無視できません。

単体露出計を使用して露出を決めるときは、次の露出倍数を加えて撮影してください。

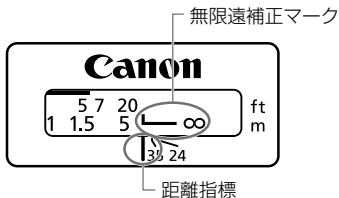
撮影倍率	1:5	1:3	1:2	1:1.5
実効FNo.	4.71	5.06	5.66	5.66
露出倍数（段）*	+1/3	+2/3	+1	+1
	+1/2	+1/2	+1	+1

\* 上段：1/3段表示 下段：1/2段表示



- 近接（マクロ）撮影の適正露出の決定には、被写体条件が大きく影響します。同じ被写体に対し、できるだけ露出を変えて撮影しておくことをおすすめします。
- 近接（マクロ）撮影時の撮影モードは、被写界深度や露出の調整のしやすい絞り優先AE（Av）またはマニュアル露出（M）をおすすめします。

## 8. 無限遠補正マーク

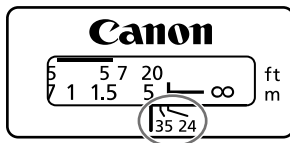


温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠 (∞) 位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、距離目盛のLマークの縦線と距離指標が合うところです。

- 無限遠の被写体にMFで正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像\*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

\* ライブビュー撮影可能なカメラの場合

## 9. 赤外指標



赤外指標は、白黒赤外フィルム使用時のピントを補正するためのマークです。MFでのピント調整後に、距離目盛を赤外指標の位置までずらし撮影します。

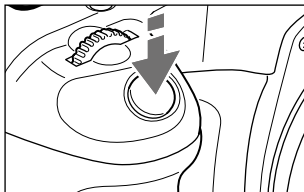
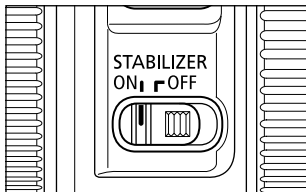
- 赤外フィルムが使用できないEOSカメラがあります。お手持ちのEOSカメラの使用説明書で確認してください。

- 赤外指標は800nmの波長が基準になっていません。
- 焦点距離によって補正量が異なりますので、表示されている焦点距離を目安に補正を行ってください。
- 赤外フィルムに記載されている注意事項も必ずお読みください。
- 赤フィルターを使用してください。

## 10. 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能はフォーカスモードがAF/MFどちらの場合でも使用できます。

また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮り、近接（マクロ）撮影など）に応じて最適な手ブレ補正を行います。



ON



OFF

**1** 手ブレ補正スイッチをONにします。

- 近接（マクロ）撮影（p.7）では、高い手ブレ補正効果を実現するハイブリッドISが働きます。
- 手ブレ補正機能を使用しないときはOFFにします。

**2** シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が働きます。

- ファインダー像が安定したことを確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します。

このレンズの手ブレ補正は、次のような条件の手持ち撮影で効果を発揮します。

- 近接（マクロ）撮影
- 夕景や室内など、薄暗い場所
- 美術館や舞台など、ストロボ撮影が禁止されている場所
- 足場が不安定な状況
- 移動する被写体を流し撮りする場合
- その他、速いシャッター速度が使用できない状況

## 手ブレ補正機能



- 撮影距離が短くなるにしたがい、手ブレ補正効果は低下します。
- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ（長時間露光）撮影のときは手ブレ補正スイッチをOFFにしてください。ONにすると手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を使用すると、通常より電力が必要なため、撮影可能枚数が少なくなります。
- シャッターボタンから指を離しても、約2秒間は手ブレ補正が作動しています。この間はレンズを外さないでください。故障の原因になります。
- EOS-1V/HS、3、7、7s、55、Kiss III、Kiss III L、IX E、D30のセルフタイマー撮影では、手ブレ補正機能は作動しません。



- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、バッテリーの消耗を防ぐため手ブレ補正スイッチをOFFにすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影環境によっては、IS効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II/EF25 II を使用しても作動します。
- カメラによっては撮影後などに像ゆれが発生することがありますが、撮影への影響はありません。
- カメラのカスタム機能でAF作動操作を変更したときは、変更後のAF作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

## 11. 近接（マクロ）撮影時の手ブレ補正

一般に近接（マクロ）撮影では、撮影倍率が高くなるにしたがい手ブレを防ぐためのシャッター速度が速くなります。撮影条件により異なりますが、一般撮影に対し更に1～2段速いシャッター速度が必要になります。

このレンズでは撮影倍率0.5倍時に約3段、0.7倍時に約2.5段の手ブレ補正効果を備えています。\*

\* 撮影条件により異なります。



撮影倍率とは、被写体の大きさと撮像面上の像の大きさの比率のことです。

## 12. 手持ちによる近接（マクロ）撮影について

近接（マクロ）撮影では、一般撮影よりも手ブレの影響が大きくなるため、手ブレ補正効果は少なくなります。

また、被写界深度も極めて浅くなるうえ、カメラの前後方向の動きにより、ピント移動が生じます。

近接（マクロ）撮影を手持ちで行うときは、次の方法で手ブレやピント移動をできるだけ少なくして、慎重に撮影してください。

### カメラをしっかり構える

右のイラストのように、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。

### AIサーボAFで撮影する

近接（マクロ）撮影では、カメラのAFモードをAIサーボAFに設定して、AFで撮影することをおすすめします。

AIサーボAFにより、近接（マクロ）撮影時のピント移動をおさえることができます。

詳しくは、カメラの使用説明書を参照してください。



両ひじを、机などで支えてください。



カメラを持った腕のひじを、ひざで支えてください。

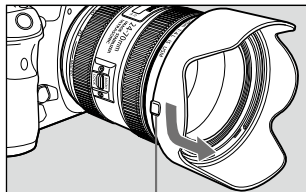
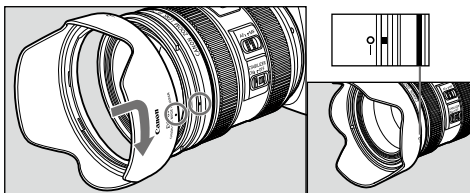


しっかりした壁などで、体と腕を支えてください。



## 13. フード

レンズフードEW-83Lは、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。



ボタン

### ●取り付け

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端の赤指標をあわせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。

### ●取り外し

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズの赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外してください。

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。



- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

## 14. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター PL-C B（77mm）を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外して行ってください。

## 15. クローズアップレンズ（別売）

クローズアップレンズ500D（77mm）を使用して拡大撮影ができます。

撮影倍率は0.05～0.29倍です。

マクロ領域に切り換えた場合は、0.16～0.74倍です。

- クローズアップレンズ250Dは使用可能なサイズがありません。
- 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

## 16. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブEF12 II/EF25 IIを使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率は次のようになります。

	撮影距離範囲 (mm)	撮影倍率 (倍)			
		近距離側	遠距離側	近距離側	遠距離側
EF12 II	24mm	163	174	0.63	0.50
	70mm	258	523	0.44	0.18
EF25 II	24mm	使用できません			
	70mm	226	332	0.72	0.4

- マクロ領域に切り換えてのご使用はできません。

- 正確なピント合わせのため、MFをおすすめします。

# 主な仕様

焦点距離・明るさ	24-70mm F4
レンズ構成	12群15枚
最小絞り	F22
画角	対角 84° ~ 34°、垂直 53° ~ 19° 30'、水平 74° ~ 29°
最短撮影距離	0.38m、マクロ領域0.2m (ワーキングディスタンス約3cm)
最大撮影倍率	0.21倍 (70mm時)、マクロ領域0.7倍
画界	約287×439 ~ 115×172.5mm (0.38m時)
フィルター径	77mm
最大径×長さ	83.4×93mm
質量	約600g
フード	EW-83L
レンズキャップ	E-77 II
ケース	LP1219

- レンズの長さはマウント面からレンズ先端までの寸法です。付属のレンズキャップおよびダストキャップをつけたときの長さは寸法表示+24.2mmになります。
- 大きさ・質量表示は本体のみの値です。
- エクステンダーは使用できません。
- 絞り値は、カメラ側で設定します。
- 記載データはすべて当社基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンEFレンズホームページ

***canon.jp/ef***

キヤノンお客様相談センター

**050-555-90002** (直通)

受付時間〈平日〉9:00~20:00〈土/日/祝〉10:00~17:00〈1/1~3は休ませていただきます。〉

※ 海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-3455-9353をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

**Canon**